設備投資に係る新たな固定資産税特例について

中小企業の生産性革命の実現のため、市町村の認定を受けた中小企業の設備投資を支援する「生産性向上特別措置法案」が今通常国会に提出されております。

今後３年間を集中投資期間と位置づけ、認定を受けた中小企業の設備投資については、臨時・異例の措置として、地方税法において償却資産に係る固定資産税の特例が講じられます。

市町村の判断により、新規取得設備の固定資産税が最大３年間ゼロ*に

*課税標準を市町村の条例で定める割合（ゼロ～１／２）を乗じて得た額とする

【生産性向上特別措置法案】

国
（導入促進指針の策定）

協議 ⇧ ⇩ 同意

市区町村
（導入促進基本計画の策定）

申請 ⇧ ⇩ 認定

中小企業*
（先端設備等導入計画の策定）

POINT!

1. 「導入促進基本計画」の同意を受けた地域に所在している中小企業が対象
2. 年率３％以上の労働生産性の向上を見込む「先端設備等導入計画」の認定を受けた設備投資（詳細下記）が対象
3. 固定資産税の特例率をゼロと措置した地域で本措置対象の事業者等は、各種補助金において、その点も加味した優先採択

*中小企業基本法上の中小企業のうち、資本金１億円以下の法人、従業員1,000人以下の個人事業主等（ただし、大企業の子会社を除く）

【対象設備】

商品の生産若しくは販売又は役務の提供の用に供する設備であって、生産性向上に資する指標が旧モデル比で年平均１％以上向上する下記設備

【減価償却資産の種類（最低取得価格／販売開始時期）】

◆機械装置（１６０万円以上／１０年以内）
◆測定工具及び検査工具（３０万円以上／５年以内）
◆器具備品（３０万円以上／６年以内）
◆建物附属設備（償却資産として課税されるものに限る）（６０万円以上／１４年以内）

優先採択の対象となる補助金一覧

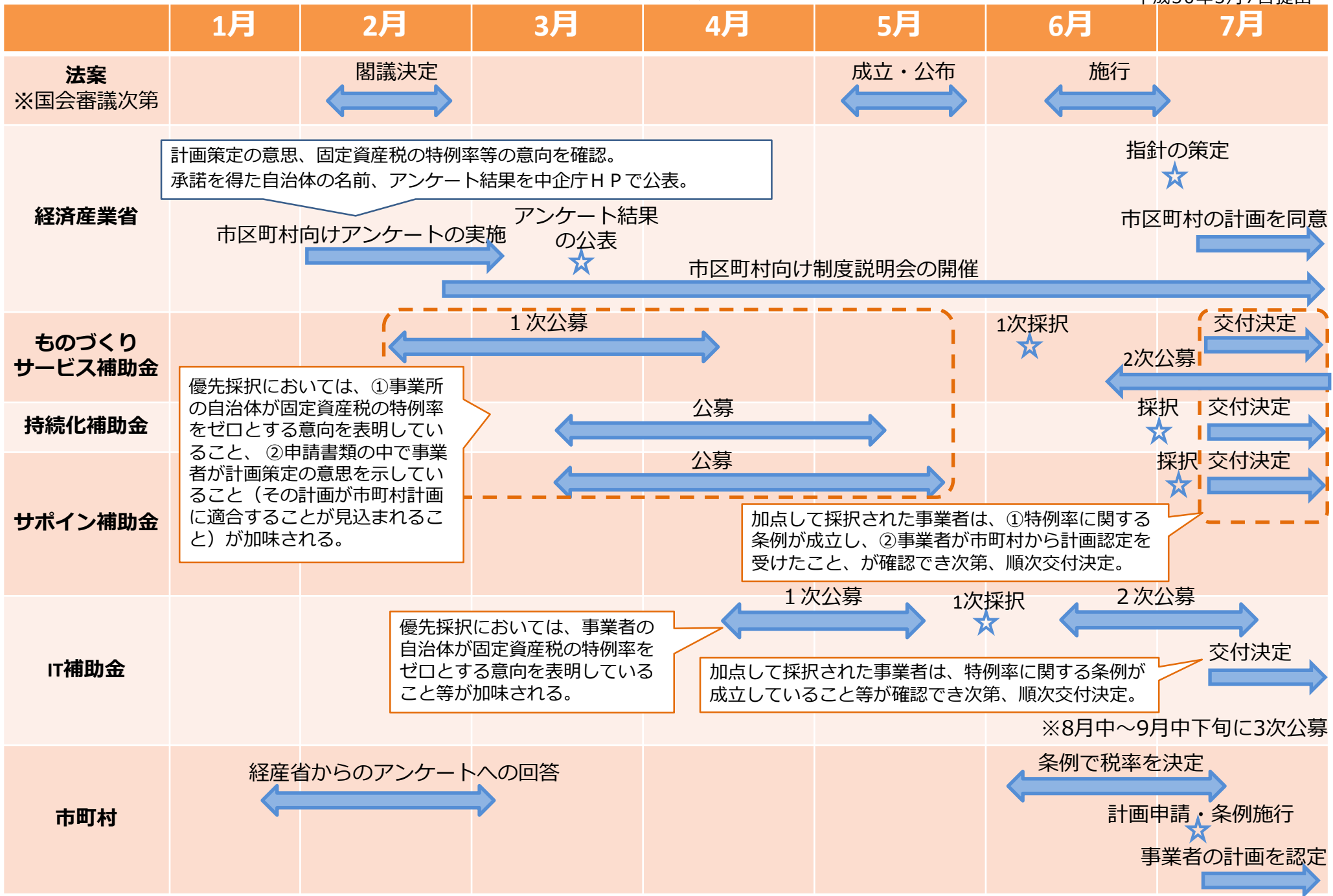
本制度に基づき固定資産税ゼロの特例を措置した自治体において、当該特例措置の対象となる事業者等については、その点も加味した優先採択が行われます。

対象となる補助金は以下のとおりです。

補助事業名	概　要
ものづくり・商業・サービス経営力向上支援事業（ものづくり・サービス補助金）	中小企業が生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセス改善を行う際の**設備投資を支援**
小規模事業者持続化補助金（持続化補助金）	小規模事業者が、商工会・商工会議所と経営計画を作成し、販路開拓等を行う取組を支援
戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン補助金）	中小企業が大学・公設試等と連携して行う研究開発、試作品開発及び販路開拓を支援
サービス等生産性向上IT導入支援事業（IT補助金）	中小企業等の生産性向上のため、業務効率化や売上向上に資する簡易的なITツール（ソフトウェア、アプリ、クラウドサービス等）の導入を支援

固定資産税特例普及の想定スケジュール

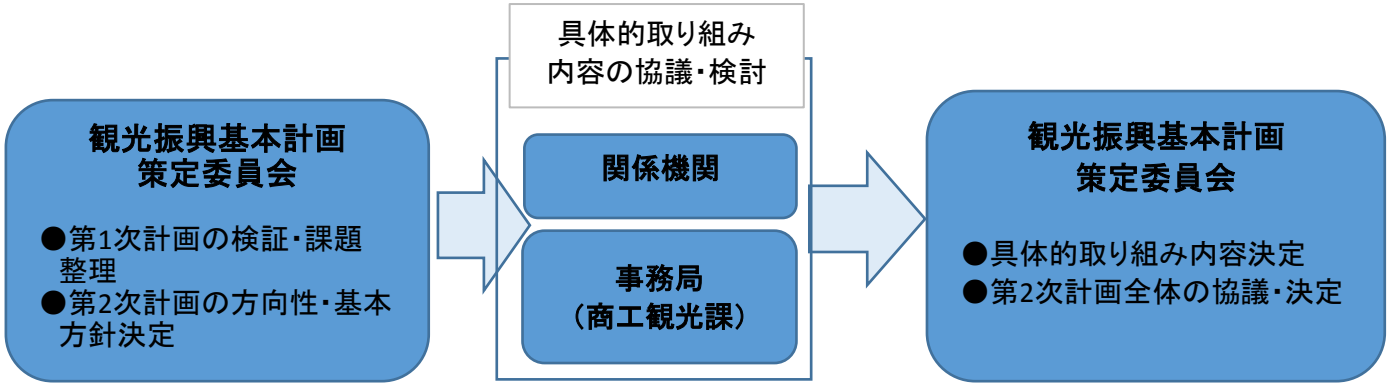
経済建設委員会資料
平成30年3月7日提出



経済建設委員会資料
平 成 30 年 3 月 7 日

第2次飯塚市観光振興基本計画　策定スケジュール（案）

区　分	項目	平成29年度		平成30年度			観光振興基本計画完成
		2月	3月	4月	5月	6月	
策定委員会	委員会	4回委員会開催			1回～2回委員会開催		
	内　容	飯塚市の目指す観光の方向性・基本方針を決定			基本計画全体の協議・決定		
	答　申	観光振興基本計画に関する審議終了後に市長に対して答申					
事務局（商工観光課）	内　容			関係機関と具体的取組内容を協議・検討			



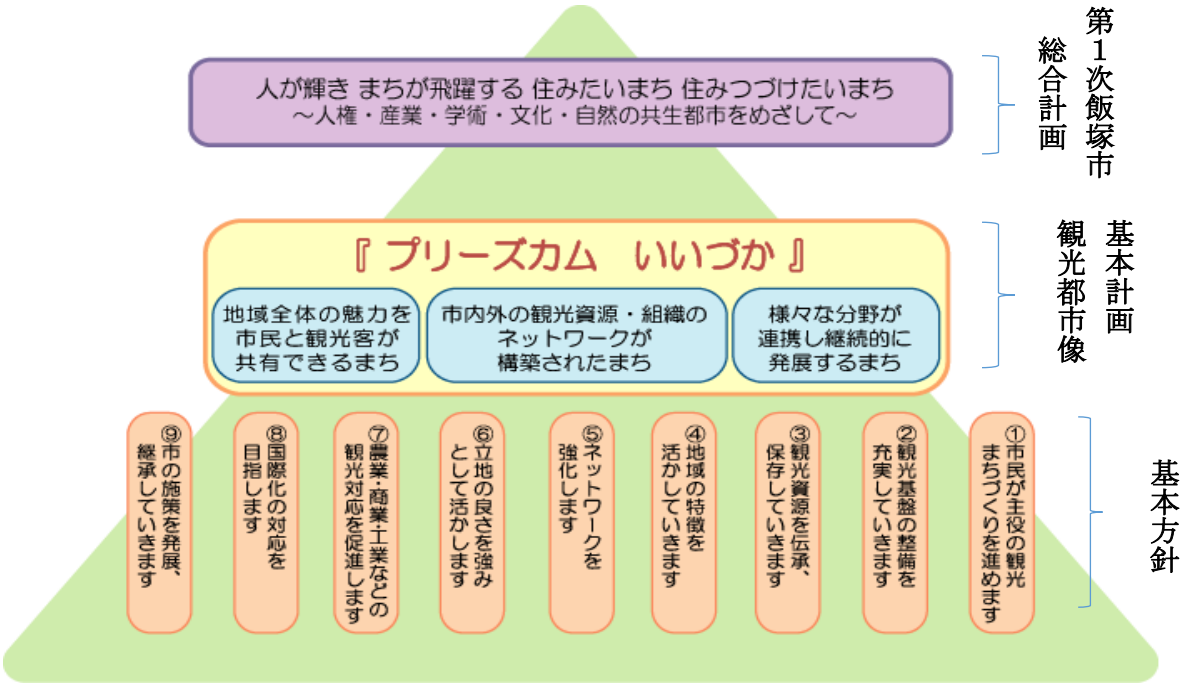
経済建設委員会資料
平成 30 年 3 月 7 日

飯塚市観光振興基本計画における「各施策の具体的取り組み状況」と「課題」

本市では「第1次飯塚市観光振興基本計画」を2008年（平成20年3月）に策定し、観光都市像「地域全体の魅力を市民と観光客が共有できるまち、市内外の観光資源・組織のネットワークが構築されたまち、様々な分野が連携し継続的に発展するまち」の実現に向けて、9 つの基本方針と6つの施策を掲げています。

さらに第1次計画では、各基本方針に沿った様々な施策を進めるために60項目の具体的な取組みを推進プロジェクトにより取り組んでいくこととしていました。

第2次飯塚市観光振興基本計画の策定に向けて、第1 次計画におけるこれまでの取り組みや残された課題を明らかにし、今後の計画策定に活かしていくため、計画に位置づけられた具体的な取組みの実施状況の取りまとめを行いました。



＜施策＞
（１）観光推進体制の整備
（２）観光まちづくりの気運の醸成
（３）観光基盤の整備
（４）観光情報の提供と収集
（５）観光資源の発掘・商品化・ルート創出
（６）重点地区の設定と観光地域づくりの推進

６０項目の具体的取り組み

（1）各施策の具体的取り組み状況

各施策の具体的取り組み状況について、計画に掲げている60項目について10年間でどれくらい取り組んでいるかいるかを4 段階で評価。

＜取り組み状況評価の基準＞　10 年間の取り組み状況を下記の 4 段階で評価
A・・・目標を上回る取り組み状況　　B・・・概ね目標を達成している取り組み
C・・・目標を下回っている取り組み　　D・・・未着手の取り組み

施　　策	項目数	A	B	C	D	対象外
(1)観光推進体制の整備	8	0	0	3	5	0
(2)観光まちづくりの気運の醸成	１１	1	5	3	2	0
(3)観光基盤の整備	8	0	5	3	0	0
(4)観光情報の提供と収集	9	0	4	4	1	0
(5)観光資源の発掘・商品化・ルート創出	１９	1	9	9	0	0
(6)重点地区の設定と観光地域づくりの推進	5	0	2	0	1	2
合　　計	６０	2	２５	２２	9	2

2008 年（平成 20 年 3 月）の第 1 次計画策定から 10 年間で全体 60 項目のうち 49 項目で取り組みに着手しているが、9 項目については未着手であった。また、着手した 49 項目において 25 項目については概ね計画に掲げている取り組みを行っているが、約半数の 22 項目については取り組み状況が不十分であった。

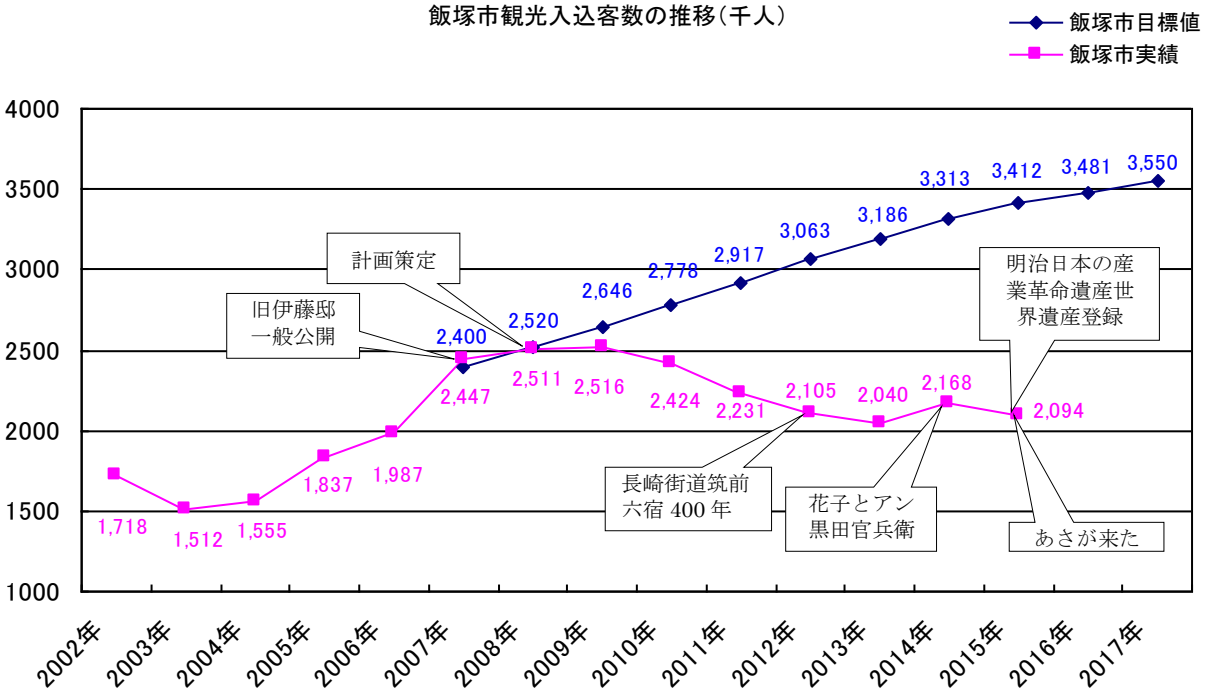
【取り組みを実施した項目】
・イベントやフォーラム、歴史講座により長崎街道などの郷土の歴史や地域の魅力を市民に周知する取り組み
・観光拠点である旧伊藤伝右衛門邸の駐車場整備や市内のサイン整備の取り組み
・旅行会社や報道関係者への情報提供、インターネットを活用した情報発信等の取り組み
・長崎街道や近代化産業遺産、お菓子などの「食」を活用した観光資源の発掘・商品化・ルート創出の取り組み

【取り組みが不十分又は未実施の項目】
・観光振興を図るための組織・体制づくり
・ファンクラブ創設や観光に関する表彰制度など市全体の観光推進の気運を高める取り組み
・観光客が市内を周遊するための「交通の整備」に対する取り組み
・ロゴマークや観光大使、マスコットキャラクターを活用したイメージアップへの取り組み
・自然やスポーツ（テニス・スキー・ゴルフ）、温泉などの観光資源の発掘・商品化・ルート創出の取り組み
・観光に関する地域リーダー育成のための取り組み

【反省点】60 項目の取り組み内容について、進捗管理や評価を行う組織・体制づくりができておらず、取り組みによる効果の検証や見直しが不十分であった。

（２）数値目標と達成状況

数値目標　平成 29（2017）年観光入込客数目標 355 万人/年



福岡県観光入込客数推計調査

2007 年（平成 19 年）の旧伊藤伝右衛門邸一般公開を契機に飯塚市の観光入込客数は 200 万人を超えているが、各年の増加率目標（2%から 6%）は達成できておらず、2010 年（平成 22 年）からは観光入込客数が減少に転じている。

本市の観光拠点である旧伊藤伝右衛門邸は、2014 年（平成 26 年）にはＮＨＫ連続テレビ小説「花子とアン」の効果もあり、年間約 27 万人の入館者数（前年比約 21 万人増）となったが、飯塚市全体の入込客数は前年比約 13 万人増にとどまっている。2014 年に続き 2015 年（平成 27 年）のＮＨＫ連続テレビ小説「あさが来た」でも飯塚市の潤野炭鉱がモデルとなったこともあり、旧伊藤伝右衛門邸は年間約 17 万人の入館者数を記録したが、飯塚市全体の観光入込客数は前年比約 7 万人の減となっている。

数値目標では 2017 年（平成 29 年）に入込客数年間 355 万人を掲げていたが、近年は年間 210 万人前後で推移している。

＜福岡県観光入込客数推計調査＞

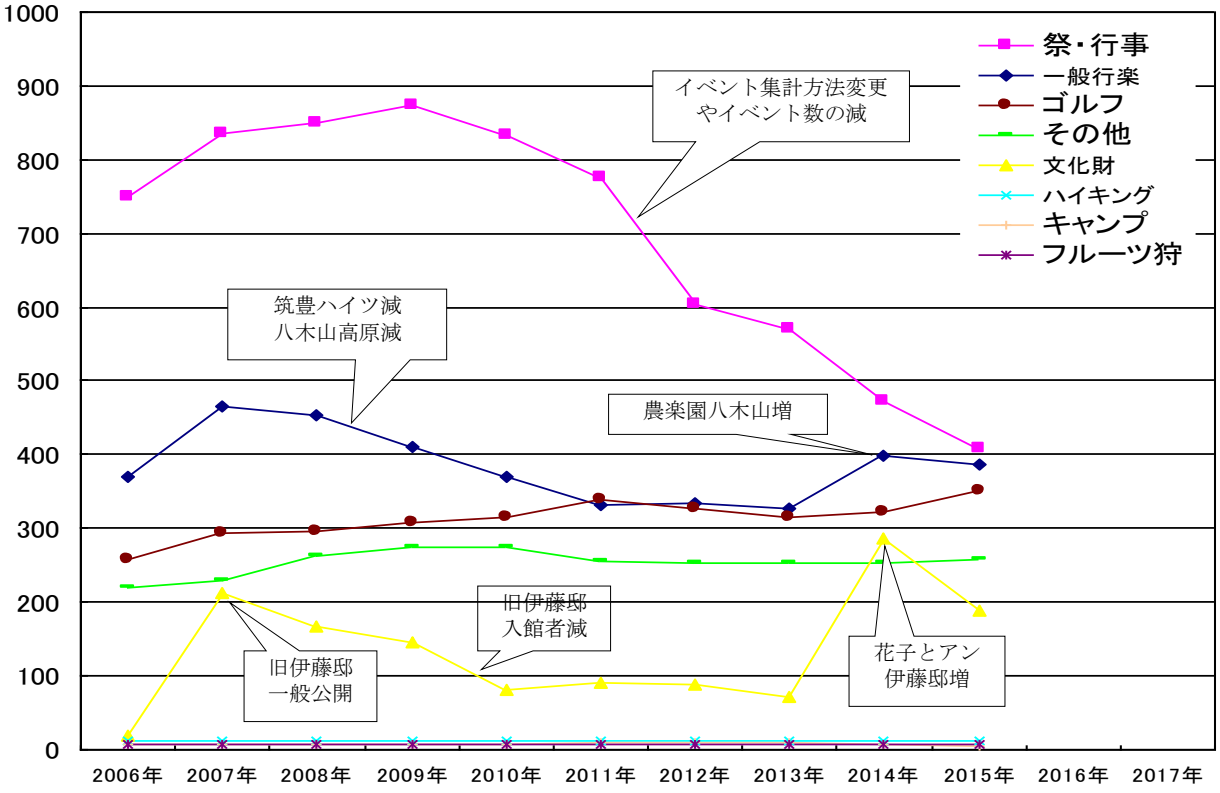
市内の各観光施設やイベントに来訪した観光客の総和であり、目的別では「一般行楽」「祭・行事」「文化財等」「ハイキング・登山」「海水浴」「キャンプ」「釣・観光漁業」「フルーツ狩り」「ゴルフ」「修学旅行」「その他」の 11 項目に分類される。

飯塚市では嘉穂劇場や農楽園八木山、サンビレッジ茜、筑豊ハイツ等への来訪者を「一般行楽」に分類し、旧伊藤伝右衛門邸、歴資料館、内野宿等への来訪者を「文化財等」に分類している。イベントについては、雛まつりや山笠、花火大会等の主催者発表数を「祭・行事」に計上している。

（３）観光入込客数減少の要因

旧伊藤伝右衛門邸は 2008 年（平成 20 年）以降毎年入館者数が大幅に減少しているが、「祭・行事」の観光入込客数が増加していたため、2009 年（平成 21 年）までは全体の観光入込客数が増加している。2010 年（平成 22 年）以降は旧伊藤伝右衛門邸の入館者数の減少に加え、イベントの減少（日数減少・中止）、イベント集計方法の変更により、「祭・祭事」の観光入込客数が大幅に減少しているため、全体の観光入込客数が減少に転じている。

飯塚市目的別観光入込客数推移（千人）

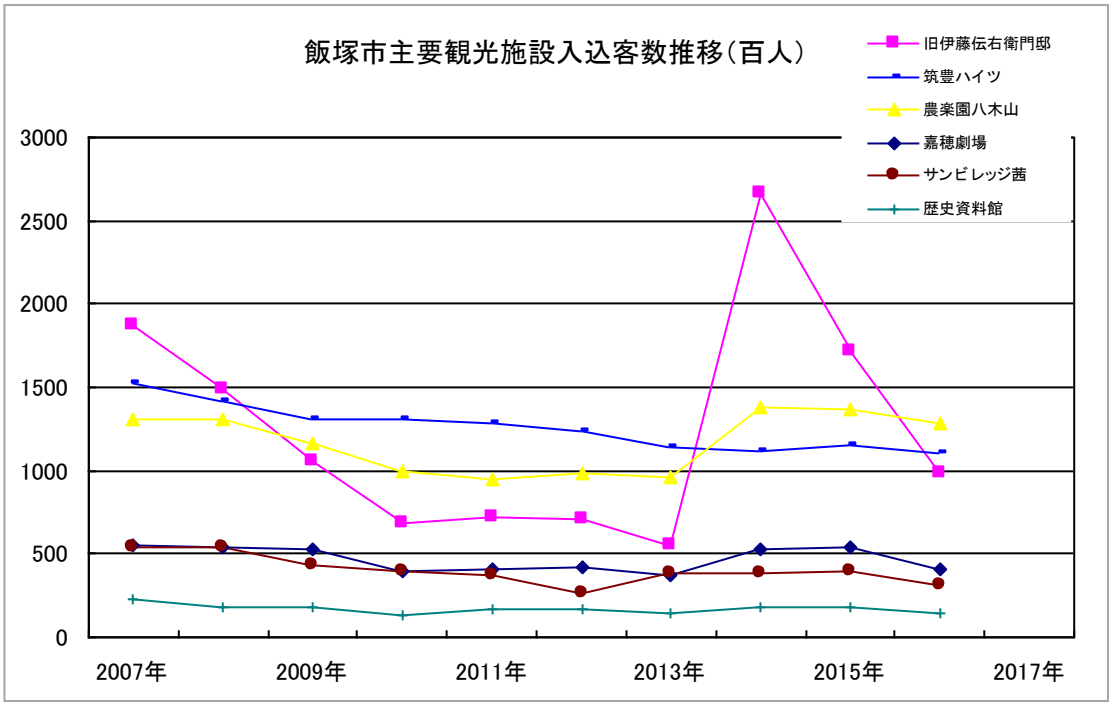


福岡県観光入込客数推計調査

（４）飯塚市主要観光施設の観光入込客数

観光入込客数推計調査において、飯塚市では「旧伊藤伝右衛門邸」「嘉穂劇場」「農楽園八木山」「歴史資料館」「筑豊ハイツ」「サンビレッジ茜」の 6 施設を主要観光施設として報告している。

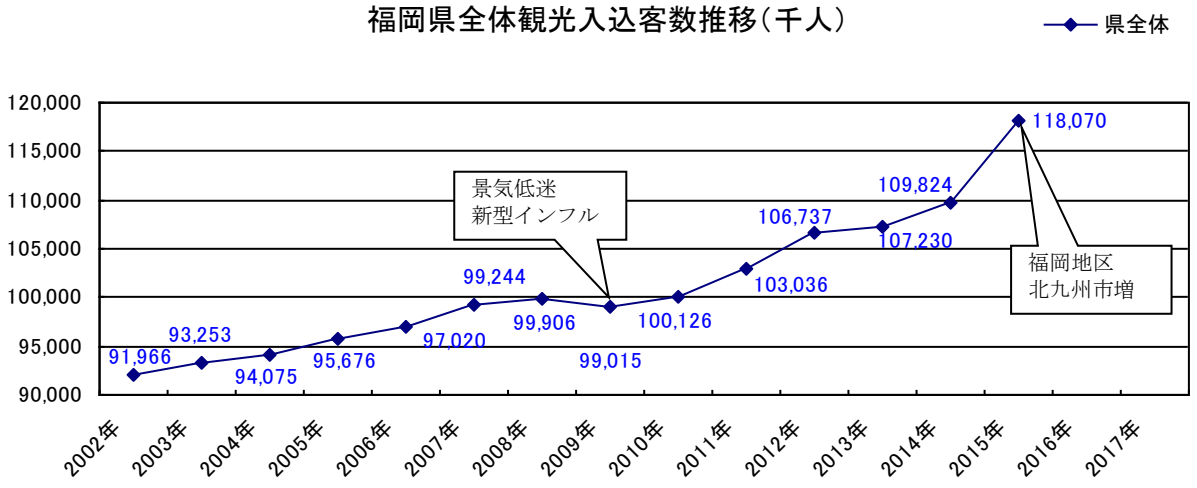
旧伊藤伝右衛門邸の観光入込客数は 2008 年（平成 20 年）以降大幅に減少しているが、旧伊藤伝右衛門邸を除く 5 施設は旧伊藤伝右衛門邸ほどの減少にはなっていない。また、2014 年（平成 26 年）には NHK 連続テレビ小説「花子とアン」のドラマ効果により、旧伊藤伝右衛門邸の入館者数が年間約 27 万人（前年比約 21 万人増）に急増し、旧伊藤伝右衛門邸以外の 5 施設の観光入込客数も増加しているが、旧伊藤伝右衛門邸ほどの急激な増加には至っていない。



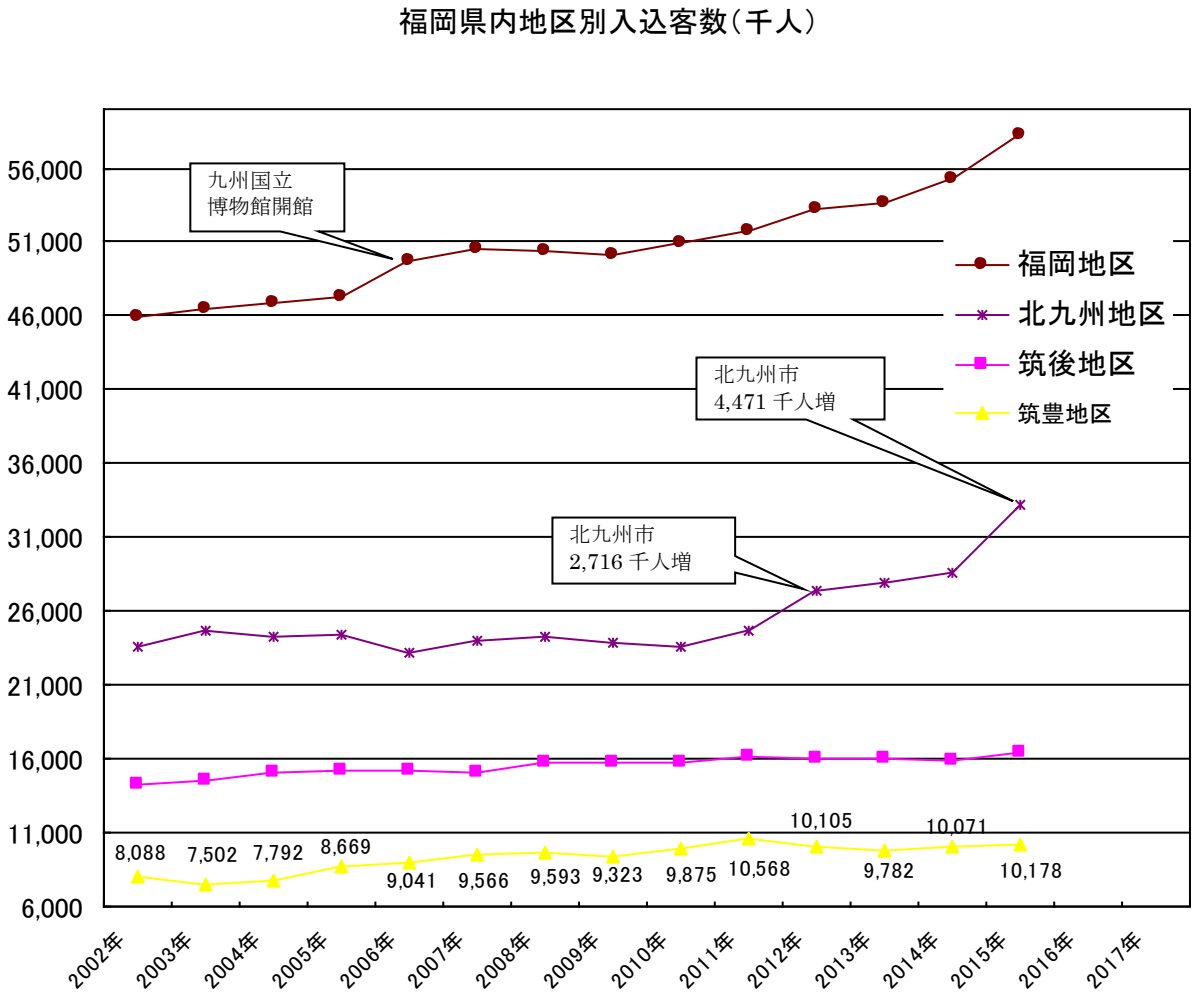
旧伊藤伝右衛門邸を除く主要観光５施設の合計
（嘉穂劇場、農楽園八木山、サンビレッジ茜、筑豊ハイツ、歴史資料館）

（５）福岡県内の観光入込客数の動向

福岡県全体及び福岡地区の観光入込客数は 2009 年（平成 21 年）に減少したものの、その後は毎年増加している。福岡地区の観光入込客数の増加については、福岡市の影響が大きいものの、福岡市近郊の自治体の観光入込客数も増加している。北九州地区については、2012 年（平成 24 年）と 2015 年（平成 27 年）に観光入込客数が大幅に増加しているが、いずれも北九州市の増加によるものであるため、その他の自治体では横ばいの状態が続いている。



福岡県観光入込客数推計調査

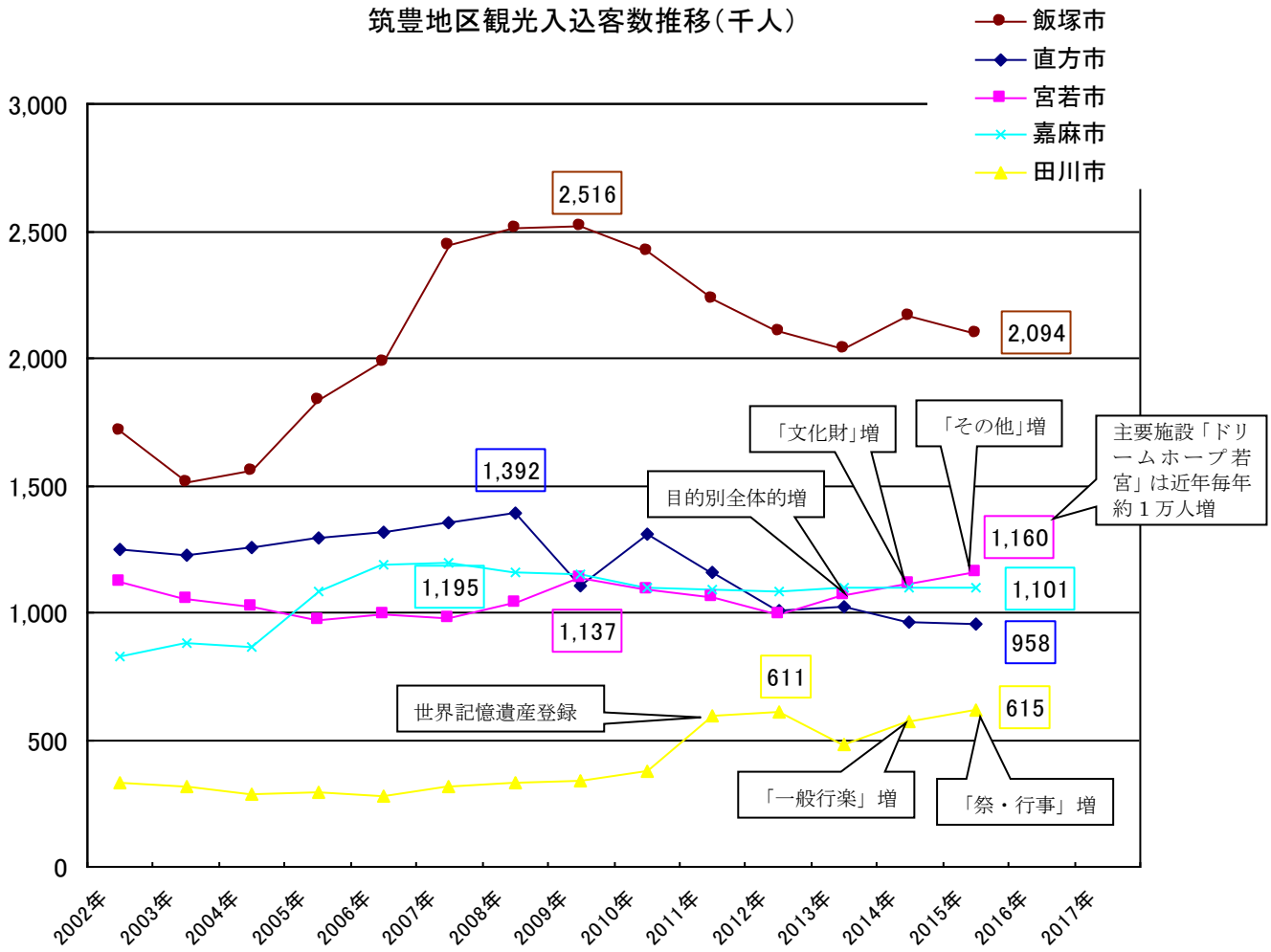


福岡県観光入込客数推計調査

（６）筑豊地区の観光入込客数の動向

筑豊地区の観光入込客数は飯塚市の入込客数が大きく減少しているが、筑豊地区全体としては微増傾向となっている。自治体別では、田川市、宮若市の観光入込客数は増加傾向、飯塚市、直方市は減少傾向となっている。嘉麻市については 2007 年（平成 19 年）と 2015 年（平成 27 年）を比較すると減少しているが、近年は若干の増加で推移している。

福岡県全体としては、2008 年（平成 20 年）から 2015 年（平成 27 年）までの間、観光入込客数が約 1,800 万人増加しているが、筑豊地区全体の観光入込客数は微増であり、特に飯塚市と直方市は増加した観光客を取り込めていない状況が続いている。



福岡県観光入込客数推計調査

（７）福岡県の外国人観光客の動向

2016 年（平成 28 年）の訪日外国人旅行者数は、過去最高であった 2015 年（平成 27 年）の 1,974 万人を更に上回り、2,404 万人となり、４年連続で過去最高を更新している。福岡県に入国する外国人数も 2015 年（平成 27 年）の 209 万人を上回り、2016 年（平成 28 年）に 260 万人となり、福岡県を訪れる外国人は年々増加している。

（８）飯塚市におけるインバウンドの取り組み

飯塚市では平成 27 年 10 月から実施している委託事業「飯塚市観光客等誘客事業」の一環で、飯塚観光協会、委託業者で海外の旅行会社（台湾・韓国）を訪問し、本市への旅行商品造成のセールス活動を実施。

①台湾

飯塚市の観光施設を含む九州北部を観光する旅行ツアーが造成され、旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場、また昼食場所として農楽園八木山を利用するツアーが実施されている。
※台湾の旅行社向けに「旧伊藤伝右衛門邸」、「嘉穂劇場」、「ひよ子の試食（お茶付き）」のセットプラン料金の利用を勧めている。

来場者数：20 名程度／回　　バス台数：1 台程度／回

②韓国

韓国の旅行社が飯塚市文化会館（コスモスコモン）にて韓国人演歌歌手によるコンサートを実施し、コンサート開始前には、400 名程度の観光客が商店街を散策し、ひよ子等、地元の特産品等を購入している。
※ツアーは 1 泊 2 日であるが、飯塚市では商店街散策、コンサート開催のみであり、市内での宿泊や観光施設の見学は行っていない。

飯塚市観光客等誘客事業　訪日外国人客実績

【韓国】

	H28	H29	合計
客数(人)	3,752	6,938	**10,690**
バス台数(台)	88	162	**250**
出演歌手数(人)	142	304	**446**
店舗等売上(円)	3,448,443	6,115,940	9,564,383
昼　食　代(円)	1,853,150	2,627,650	4,480,800
会 場 代 等(円)	1,512,911	3,332,155	4,845,066
合　　計(円)	6,814,504	12,075,745	**18,890,249**
一人当たりの消費額::円 (店舗等売上)	919	882	**895**
一人当たりの消費額:円 (全体)	1,816	1,741	1,767

2017/12/12　現在

【台湾】

	H28	H29	合計
客数(人)		413	**413**
バス台数(台)		16	**16**
入館料・土産品等売上(円)		427,020	**427,020**
昼　食　代(円)		119,240	**119,240**
合　　計(円)		546,260	**546,260**
一人当たりの消費額::円 (店舗等売上)		1,323	**1,323**

【2か国合計】

	H28	H29	合計
客数(人)	3,752	7,351	**11,103**
合　　計(円)	6,814,504	12,622,005	**19,436,509**
一人当たりの消費額::円 (全体売上)	1,816	1,532	**1,674**

（９）観光入込客数から見える課題

①観光客の都市部への集中

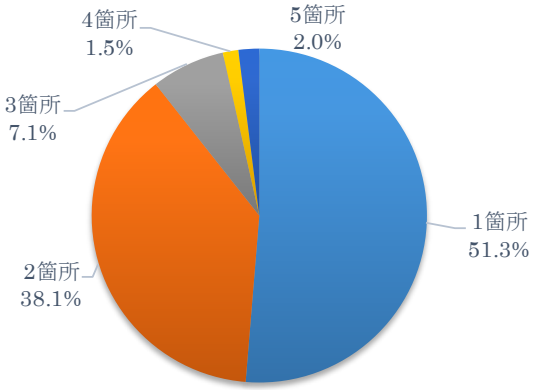
福岡県内の観光客は福岡地区、北九州地区に集中しており、筑豊地区は全体の 1 割未満となっている。また、福岡県全体としては、2008 年（平成 20 年）から 2015 年（平成 27 年）までの間、観光入込客数が約 1,800 万人増加しているが、筑豊地区の観光入込客数は横ばいであり都市部に観光客が集中している。

②観光客の滞在時間

2014 年（平成 26 年）には NHK 連続テレビ小説「花子とアン」のドラマ効果により、旧伊藤伝右衛門邸の入館者数が年間約 27 万人（前年比約 21 万人増）に急増したが、波及効果が市内全域には及んでいない。平成 29 年に実施したアンケート調査においても、市内での立ち寄り先は 1 箇所から 2 箇所という回答が約 9 割となっており、飯塚市を訪れる観光客の滞在時間は短いと考えられる。

市内での立ち寄り先の数

立寄先の数	回答数	割　合
1 箇所	101	51.3%
2 箇所	75	38.1%
3 箇所	14	7.1%
4 箇所	3	1.5%
5 箇所	4	2.0%
計	197	



③広域連携

筑豊地域の観光連携を目的として「筑豊地区観光協議会」を組織しているが、主な事業はパンフレット発行、広告掲載であり活発な事業展開に至っていない。

筑豊地区観光協議会：筑豊地区 15 市町村で構成
シュガーロード連絡協議会：長崎街道沿い 3 県 8 市で構成
九州のひなまつり広域振興協議会：九州 6 県 12 地区で構成
嘉飯圏域定住自立圏構想：2 市 1 町（飯塚市・嘉麻市・桂川町）の首長が連携に合意し、「戦略的な広域観光の振興」に向けた協議を開始

④観光資源の活用

旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場などの近代化産業遺産、内野宿やお菓子などの長崎街道関連の観光資源を活用した取り組みを実施しているが、市内の観光資源を十分に活用できていない。（車いすテニス大会や筑豊緑地、ゴルフ、サンビレッジ茜などのスポーツ関連の観光資源、ふれあい市や庄四季物、四季一番などの物産館や農産物関連の観光資源、筑豊ハイツや伊川温泉、八木山の自然など）

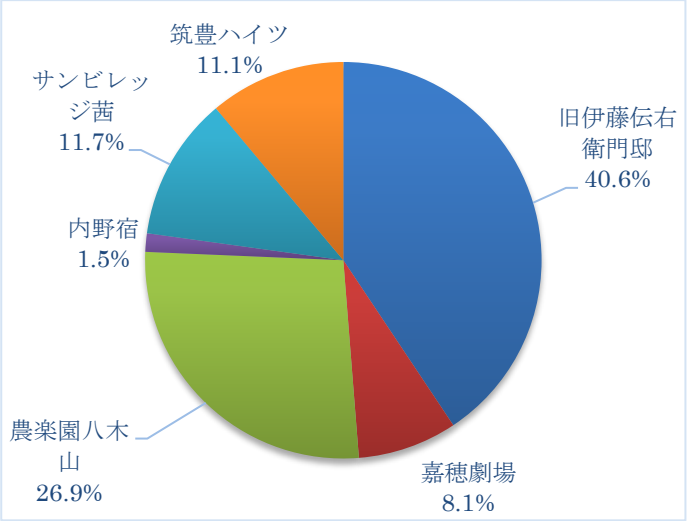
経済建設委員会資料
平成 30 年 3 月 7 日

第 2 次飯塚市観光振興基本計画策定に向けた観光客アンケート調査結果

調査目的	本市を訪れる観光客の動向や意見を伺い、今後の計画策定の基礎資料とするため
調査対象	観光施設を訪れた観光客
実施期間	平成 29 年 6 月～9 月
調査方法	アンケート調査票を用いた調査（一部聞き取り）
調査場所	旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場、農楽園八木山、内野宿、サンビレッジ茜、筑豊ハイツ
回 答 数	197 人

アンケート回収数

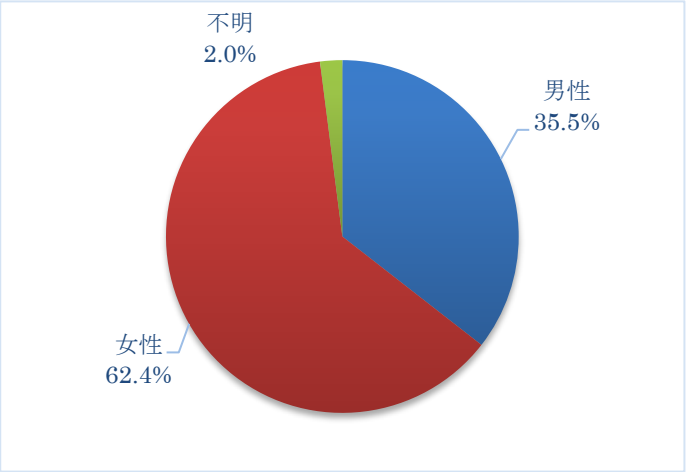
場　所	回答数	割 合
旧伊藤伝右衛門邸	80	40. 6%
嘉穂劇場	16	8. 1%
農楽園八木山	53	26. 9%
内野宿	3	1. 5%
サンビレッジ茜	23	11. 7%
筑豊ハイツ	22	11. 1%
計	197	



回答者の属性（性別・年代・居住地）

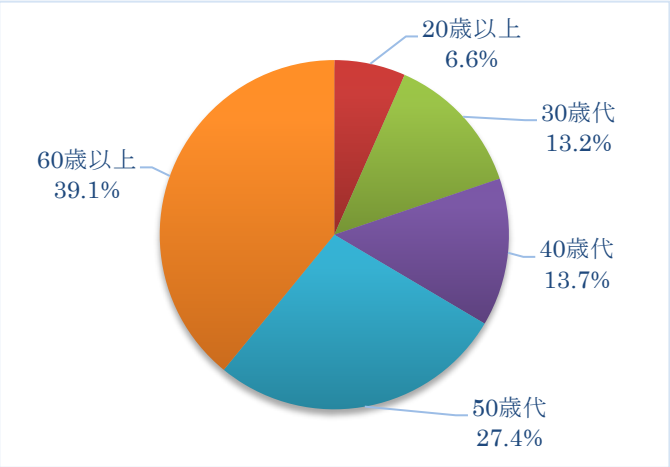
①性別

性 別	回答数	割 合
男 性	70	35. 5%
女 性	123	62. 4%
不 明	4	2. 0%
計	197	



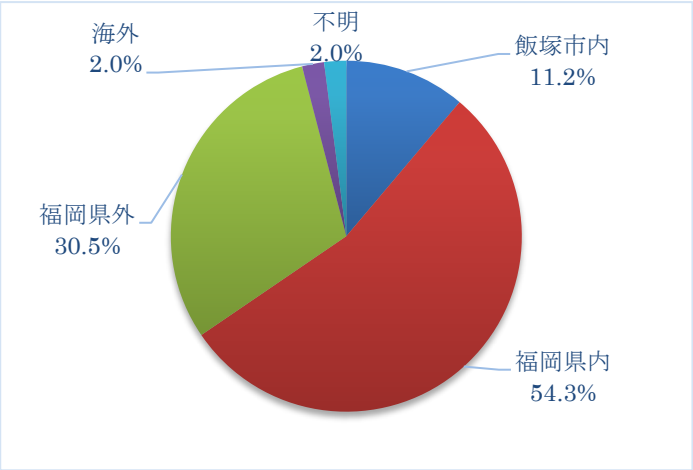
②年齢

年　齢	回答数	割　合
19 歳以下	0	0. 0%
20 歳代	13	6. 6%
30 歳代	26	13. 2%
40 歳代	27	13. 7%
50 歳代	54	27. 4%
60 歳以上	77	39. 1%
計	197	



③居住地

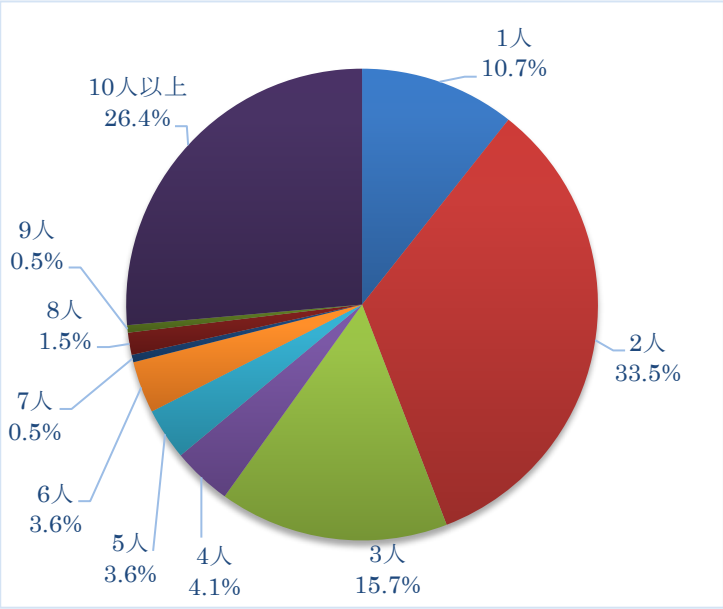
居住地	回答数	割　合
飯塚市内	22	11.2%
福岡県内	107	54.3%
福岡県外	60	30.5%
海　外	4	2.0%
不　明	4	2.0%
計	197	



回答者の年齢層は 60 歳以上が約 4 割となっており、50 歳以上を含めると 6 割以上となっている。居住地は福岡県内が最も多く、県外からの来訪は約 3 割となっている。

1．旅行の人数

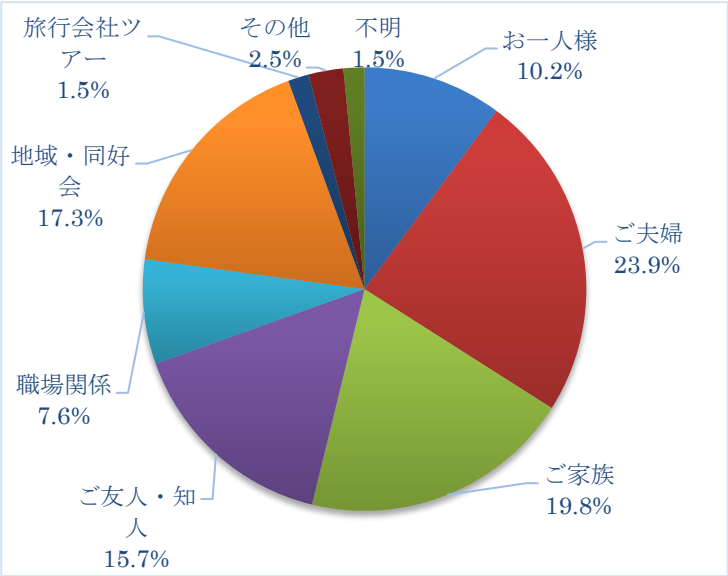
人　数	回答数	割　合
1　人	21	10.7%
2　人	66	33.5%
3　人	31	15.7%
4　人	8	4.1%
5　人	7	3.6%
6　人	7	3.6%
7　人	1	0.5%
8　人	3	1.5%
9　人	1	0.5%
10 人以上	52	26.4%
計	197	



旅行の人数は 2 人が最も多く、3 人以内での旅行が約 6 割となっているが、10 人以上の団体での旅行も全体の 4 分の 1 程度を占めている。

2．旅行グループ

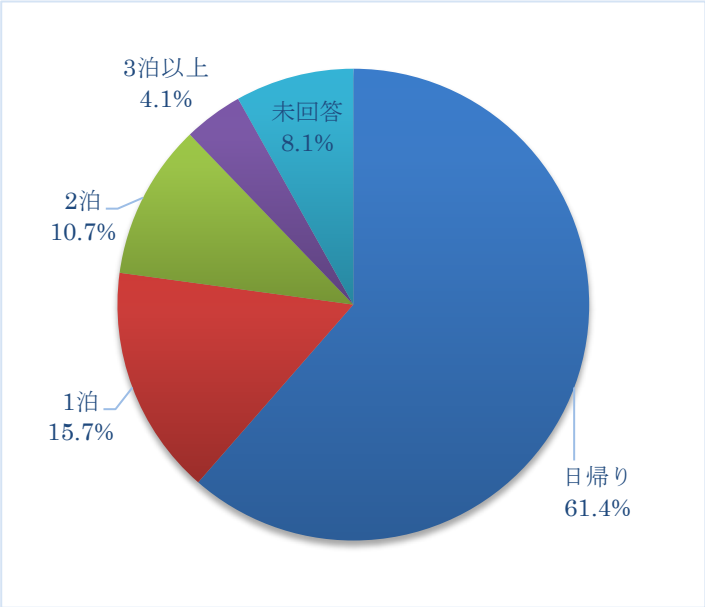
旅行グループ	回答数	割　合
お一人様	20	10. 2%
ご夫婦	47	23. 9%
ご家族	39	19. 8%
ご友人・知人	31	15. 7%
職場関係	15	7. 6%
地域・同好会	34	17. 3%
旅行会社ツアー	3	1. 5%
その他	5	2. 5%
不　明	3	1. 5%
計	197	



夫婦や家族での旅行が最も多くなっているが、地域・同好会などのグループでの旅行も 17.3%と高い割合となっている。

3．旅行日数

旅行日数	回答数	割　合
日帰り	121	61. 4%
1 泊	31	15. 7%
2 泊	21	10. 7%
3 泊以上	8	4. 1%
未回答	16	8. 1%
計	197	

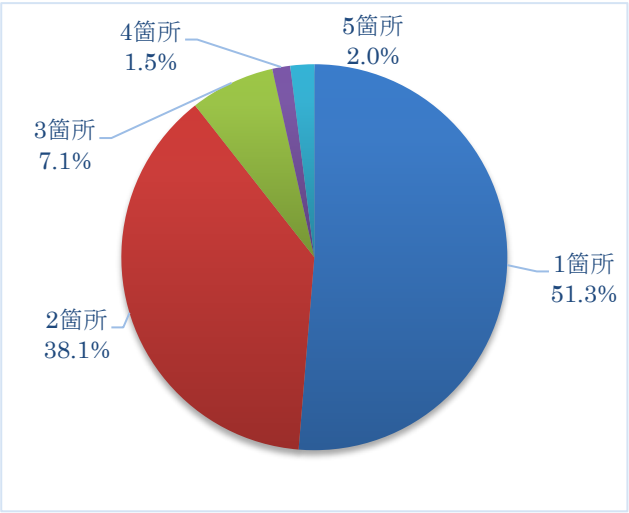


旅行日数は日帰り旅行が約 6 割と最も高く、宿泊旅行は約 3 割となっている。

4．飯塚市内での立ち寄り先

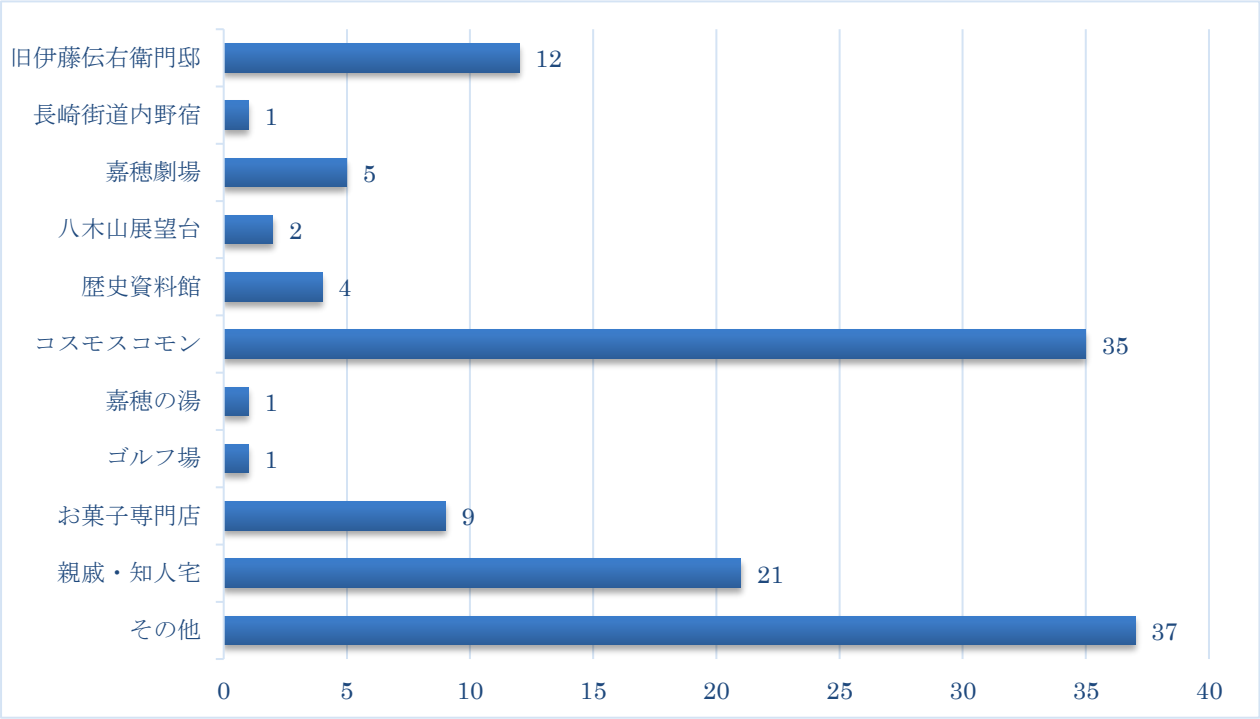
①立ち寄り先の数

立寄先の数	回答数	割　合
1 箇所	101	51.3%
2 箇所	75	38.1%
3 箇所	14	7.1%
4 箇所	3	1.5%
5 箇所	4	2.0%
計	197	



飯塚市内での立ち寄り先は 1 箇所又は 2 箇所で約 90%となっており、目的の場所以外にはあまり立ち寄っていない。

②立ち寄り先（アンケート場所を除く）

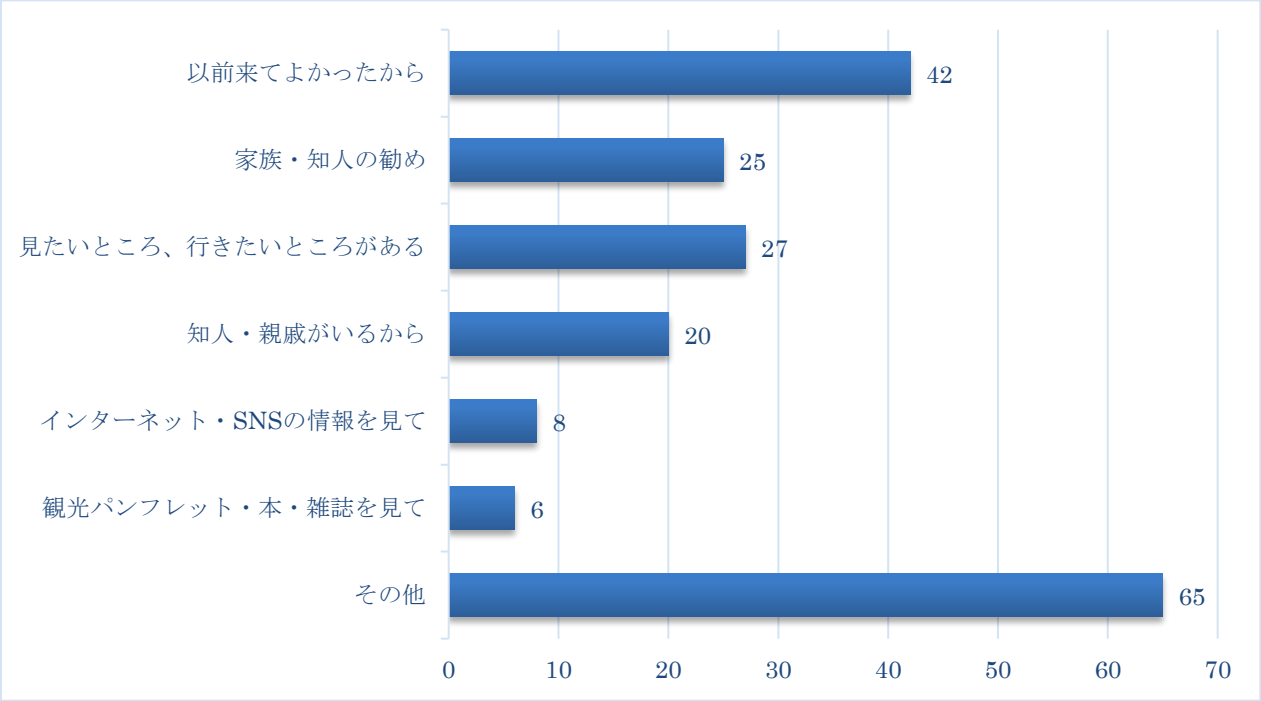


立ち寄り先で「コスモスコモン」の回答が多くなっているが、旧伊藤邸でのアンケート当日にコスモスコモンで「お母さんコーラス九州大会」が開催されていた影響である。

５．飯塚市に来られた動機・きっかけは何ですか。（複数回答可）

動機きっかけ	回答数
以前来てよかったから	42
家族・知人の勧め	25
見たいところ､行きたいところがある	27
知人・親戚がいるから	20
インターネット・SNS の情報を見て	8
観光パンフレット・本・雑誌を見て	6
その他	65
計	193

※「その他」の主な回答：コーラス大会、近くに住んでいる、用事で近くまで来た



飯塚市に来訪の動機はその他を除くと「以前来てよかったから」が最も多くなっており、インターネットやパンフレット等を見てという理由は少なくなっている。

６．飯塚市内を観光されて一番良かった場所・モノはなんですか（自由記述）

【項目別】

一番良かった場所・モノ	回答数
観光施設	80
自然	7
温泉	5
食べ物	4
公園（勝盛・大将陣）	2
イベント（花火大会）	1
工場見学（ひよ子）	1
その他	2
計	102

【観光施設内訳】

一番良かった場所・モノ	回答数
旧伊藤伝右衛門邸	63
嘉穂劇場	7
歴史資料館	3
サンビレッジ茜	2
内野宿	1
筑豊ハイツ	1
農楽園八木山	1
コスモスコモン	1
独楽資料館	1
計	80

飯塚市内を観光して良かった場所・モノは「観光施設」が多く、その他の自然や温泉、食べ物などの回答は少なくなっている。

７．飯塚市内を観光されて不便に感じた点を教えて下さい（自由記述）

【項目別】

不便に感じた点	計
交通関係	22
施設・店舗関係	8
地図・サイン関係	2
その他	4
計	36

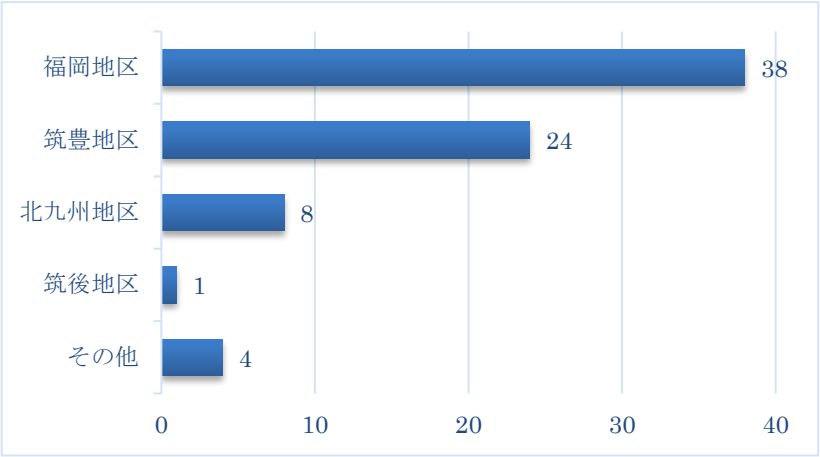
【交通関係内訳】

不便に感じた点	計
公共交通が少ない	18
車が多い、渋滞	3
道が狭い	1
計	22

飯塚市内を観光して不便に感じた点は「交通関係」が最も多く、公共交通が少ないという意見が最も多くなっている。

8．飯塚市以外での立ち寄り先を教えて下さい

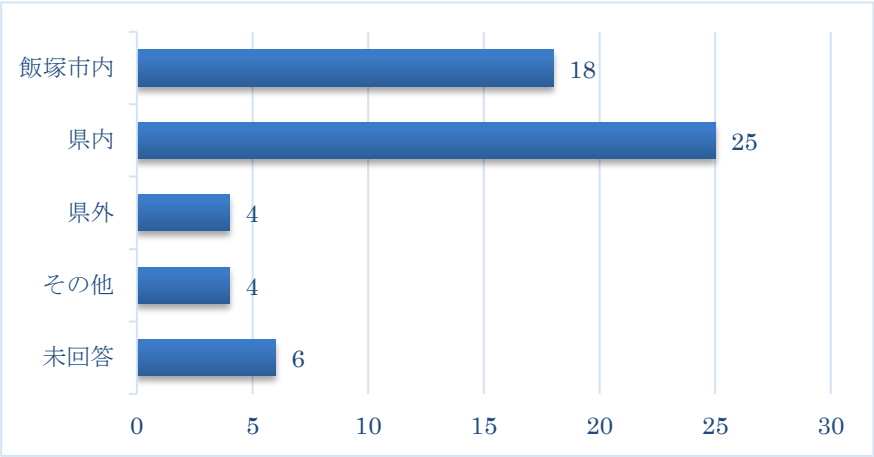
立ち寄り先	回答数
福岡地区	38
筑豊地区	24
北九州地区	8
筑後地区	1
その他	4
計	75



飯塚市以外での立ち寄り先は「福岡地区」が最も多くなっており、「北九州地区」「筑後地区」という回答は少なくなっている。

9．今回の宿泊先はどこですか（宿泊旅行の人のみ）

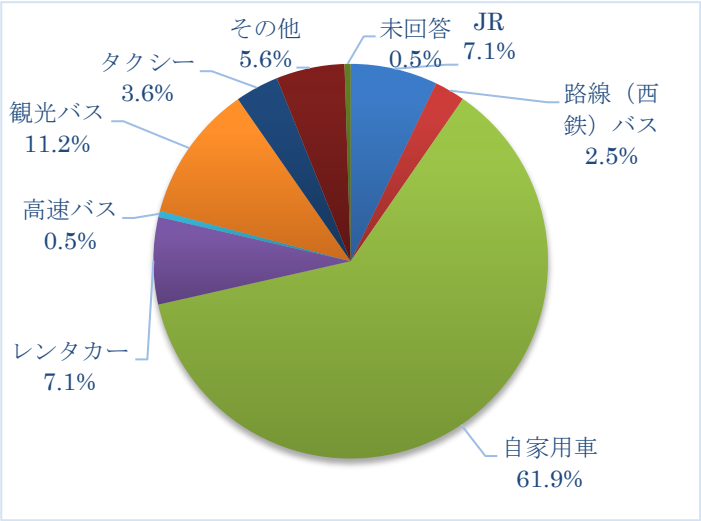
宿泊先	回答数
市内	18
県内	25
県外	4
その他	4
未回答	6
計	60



宿泊先は県内という回答が最も多く、飯塚市での宿泊は約 3 割となっている。

１０．利用交通機関

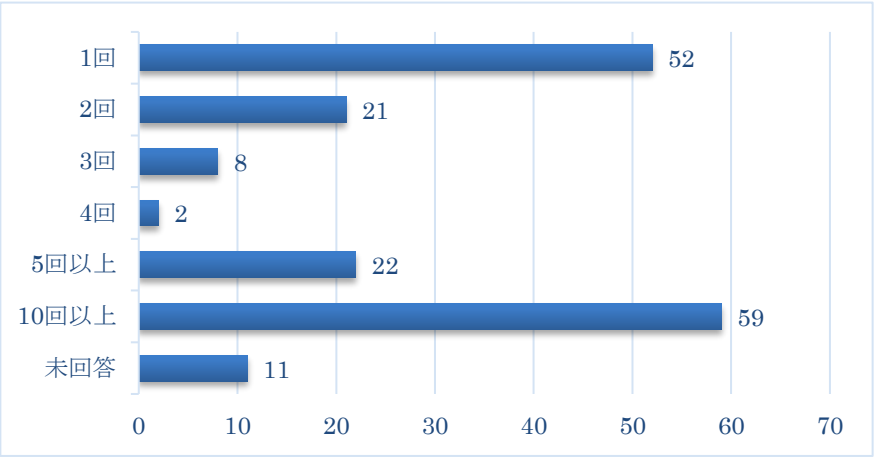
利用交通機関	回答数	割　合
JR	14	7.1%
路線（西鉄）バス	5	2.5%
自家用車	122	61.9%
レンタカー	14	7.1%
高速バス	1	0.5%
観光バス	22	11.2%
タクシー	7	3.6%
その他	11	5.6%
未回答	1	0.5
計	197	



利用交通機関は「自家用車」が最も高く、ＪＲやバスといった公共交通機関での来訪は約１割となっている。

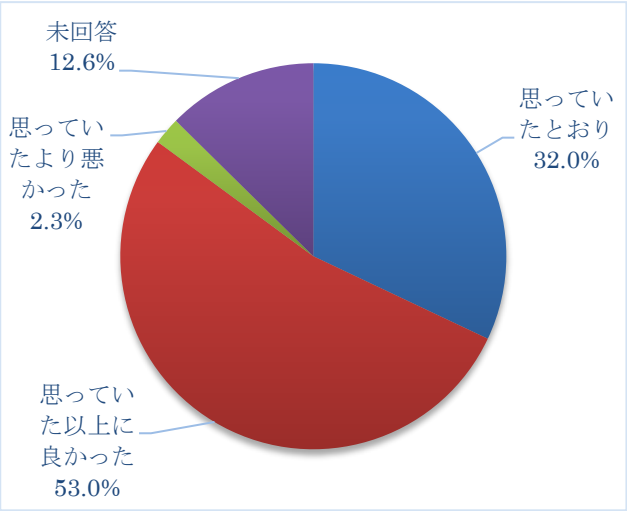
１１．飯塚市への来訪回数（市外在住の方のみ）

来訪回数	回答数
1 回	52
2 回	21
3 回	8
4 回	2
5 回以上	22
10 回以上	59
未回答	11
計	175



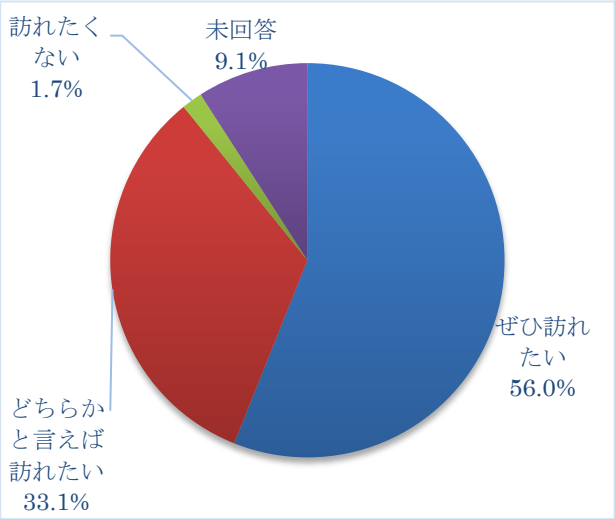
１２．訪れる前と訪れた後での印象は（市外在住の方のみ）

印　象	回答数	割　合
思っていたとおり	56	32. 0%
思っていた以上に良かった	93	53. 1%
思っていたより悪かった	4	2. 3%
未回答	22	12. 6%
計	175	



１３．飯塚市へまた訪れたいと思いますか（市外在住の方のみ）

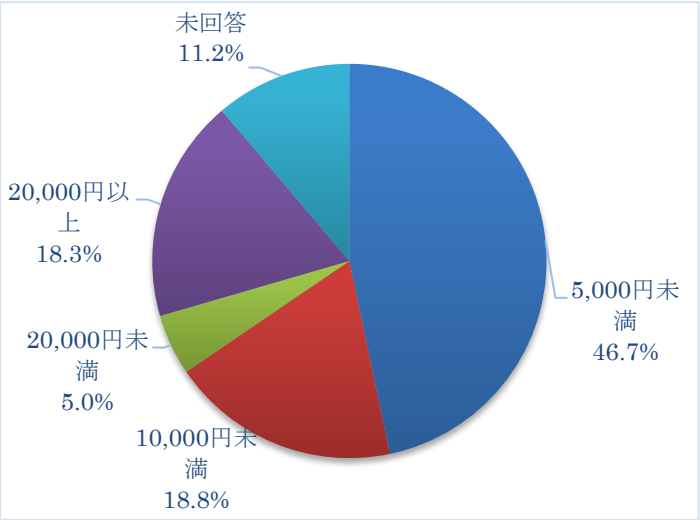
また訪れたいと思いますか	回答数	割　合
ぜひ訪れたい	98	56. 0%
どちらかと言えば訪れたい	58	33. 1%
訪れたくない	3	1. 7%
未回答	16	9. 1%
計	175	



飯塚市の印象は「思っていた以上に良かった」が５割を超えており、また訪れたいかという設問でも「ぜひ訪れたい」「どちらかと言えば訪れたい」が約９割となっている。

１４．旅行費用（食事代・交通費・入場料・宿泊費等）

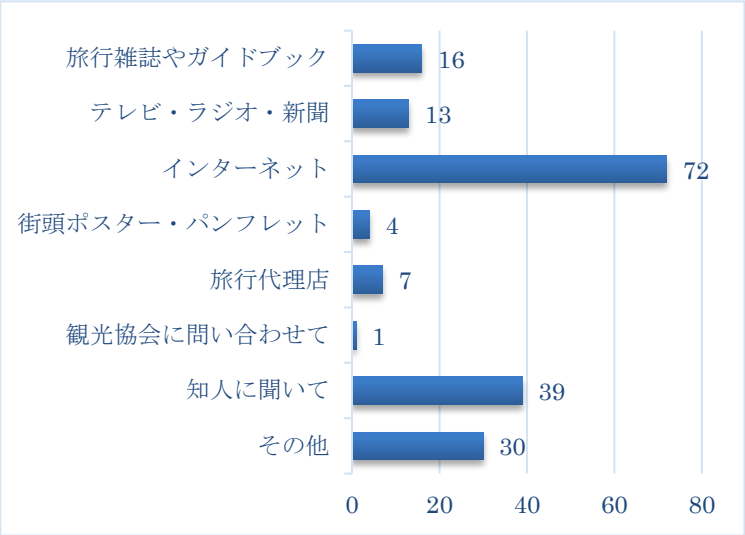
旅行費用	回答数	割　合
5,000 円未満	92	46.7%
10,000 円未満	37	18.8%
20,000 円未満	10	5.0%
20,000 円以上	36	18.3%
未回答	22	11.2%
計	197	



旅行費用は「5,000 円未満」が最も多く、日帰り旅行が多いことが要因であると考えられる。

１５．飯塚市の観光情報の入手先はどこですか（複数回答可）

観光情報の入手先	回答数
旅行雑誌やガイドブック	16
テレビ・ラジオ・新聞	13
インターネット	72
街頭ポスター パンフレット	4
旅行代理店	7
観光協会に問い合わせて	1
知人に聞いて	39
その他	30
計	181



※「その他」の主な回答：市内在住、以前から知っている、市報、子ども会、駅

アンケート回答者の約 4 割は 60 歳以上であるが、「インターネット」という回答が最も多くなっている。